

百年の歴史貫く地域医療への思い



池田で100年続く地域医療の歴史をふまえ「予防」「健康支援」で地域貢献に邁進するこいし歯科のみなさん

●久しぶりに大阪・池田に「こいし歯科」小石剛院長(38)を訪ねました。8年前このインタビュー欄にご登場いただいて以来です。小石先生は当時から予防と地域活動にとっても熱心に取り組んでおられましたが、「地域包括ケア」の時代に突入した現在、日本の医療はまさに小石先生が進んで来た方向に進んでいます。地域医療の「先達」として、今のような診療活動・地域活動を行っておられるのか、とても興味深い取材となりました。●池田は古くから能勢地方と大阪を結ぶ中継地点として栄えた歴史のある街。小石先生の家系はこの街でおよそ100年前から内科の医院を開業し、昭和の初期、祖父の代から80年以上にわたって歯科医院として地域医療を担ってきました。小石先生は歯科の三代目院長として地域の人々に深く愛されています。●診療理念は「予防」を真ん中に据えた「健康支援」。そして健康の入り口である口腔の健康(健口)づくりをつうじて地域社会に貢献すること。その理念は2004年に小石先生が院長に就任して以来一貫しています。現在は設備も体制も充実して診療も地域活動も大車輪です。常に「地域」に向かって発信し、地域のなかで活動している小石院長とこいし歯科の「今」と「明日」をお伝えいたします。



シックモダンなこいし歯科。
通りは時代劇のセットのようだ

■院長プロフィール：●小石 剛(こいし ごう)先生： 会会員・日本口腔衛生学会会員・日本障害者歯科学会
1978年(昭和53年)5月大阪府池田市生まれ。曾祖父は 会員・日本抗加齢医学会専門医
内科医。代々池田で祖父の代昭和7年から開業してい ほか、子どもの咬合を考える会会員・ドライマウス
る歯科医院の三代目。2002年(平成14年)鶴見大学歯学 研究会会員・池田市歯科医師会理事公衆衛生部・日本
部卒業。2013年(平成25年)岡山大学 大学院修了(小 笑い学会会員
児歯科)。歯学博士。2004年こいし歯科院長に就任。 ●医院DATA：●診療内容：予防歯科・小児歯科・一般
2007年7月現在地に移転開業。「アート・イン・ホスピ 歯科・一般矯正・こどもの矯正(顎顔面矯正)・審美歯
タル」(居心地の良い癒しの空間)をコンセプトに、治 科・ホワイトニング・ドライマウス ●ユニット8台・
療スペースとメンテナンススペースを分離して、予防 歯科医師3・歯科衛生士9(常勤6・非常勤3)・歯科
歯科を推進し地域の公衆衛生活動・コミュニティ活動 技工士1・スマイルクリエーター(歯科助手)7 ●来
にも奮闘している。■所属学会等●日本小児歯科学会 院者数約90~100人/日
会員・日本矯正歯科学会会員・日本口腔インプラント学



広い待合室は隔月で「手水寄席」会場となる



長い受付カウンターにはいつも明るいスタッフが待っていてくれる



朝礼風景。理念を読み上げストレッチをして9時の診療開始に備える



院内には寄席や「こどもカフェ」などのイベント情報がいっぱい

●アート・イン・ホスピタル

——前回のインタビューから8年ぶりですが、先生は変わらず若くハツラツとしていらっしゃいます。医院の規模が大きくなって全体が活気にあふれていると感じました。

小石 ありがとうございます。この8年間でいうとユニットは6台から8台に、診療スタッフが合計10人から20人になり、来院者数は50人から100人以上に増えました。ハード面では、玄関から診療室、トイレまで、完全バリアフリーで、「居心地のよい、癒しの空間」をめざして「アート・イン・ホスピタル」（病院への芸術の導入）を導入しています。人の五感に心地よく作用して、「眼耳鼻舌身意」にも通ずる、光（照明）・色（色彩や配色）・音（BGM・音響設備）・匂い（アロマ）・素材等を吟味して空間づくりをすすめてきました。ただ、診療室を増やした都合上、医局やスタッフルームを道路の向かい側に部屋を借りて移動しました。そこには「MOGU2（もぐもぐ）ルーム」という「こどもカフェ」や親子教室、イベント用のスペースも作ったんですよ。

●予防と地域活動の2本柱

——診療内容はどのように展開されているでしょうか。

小石 診療理念は、一貫して「予防」と「健康支援」、「健口づくりを通じての地域貢献」というテーマを掲げていますが、やり方は進化しています。たとえば「予防」、単にむし歯や歯周病を予防することが予防のゴールではなく、きちんと食べ、話し、呼吸を管理する「機能」を持った口腔に育てることが必要で、その

ために私たちは早い時期から咬合を誘導して理想的な歯列と機能を実現する「顎顔面矯正」を導入しています。導入に当たって、たくさんの教育シートやスタンプカード、スタンプの景品の歯ブラシやマグカップのデザインまで、すべてコムネットのサポートで準備を整えることができるとも感謝しています。

また私たちは「何を」「どう食べるのか」という「食育」にも力を入れています。「食べること」は、診療室の中だけでは解決できるものではなく、家庭や友だち、地域に直結しています。そこで私たちは「体験を通じて食べるのが大好きになるように」そして、むし歯予防と「食べること」の悩みを解決する場として、2歳から自分で作る子どもの料理教室「こどもカフェ」を開いています。また、「マイナス1歳からの予防歯科」「母子感染」「歯の生え変わり時期の上手なブラッシング」「食育」などをテーマにする「お口育て教室」も隔月で開いています。また地域に対しては保育所や地域の子育てサークルへの「出張母親教室」や成人向け健康教室開催を呼びかけています。スタッフの中には管理栄養士もおりますし、私を含めてスタッフのほとんどが「国際食育士協会」の認定「食育士」の資格をとっているんですよ。

●「手水寄席」8年で48回開催

——小石先生の地域活動で欠かせないのはなんといってもこの地域ならではの落語ですね。

小石 そうなんです。池田は江戸時代「池田の猪買い」など池田を舞台にした演目があるほど落語が盛んなところでした。そ



院長もスタッフも患者さんと同じ目の高さで語りかけている



吹き抜けの階段を上って2階に。個室のメンテナンスルームに大先生・小石雅也先生の診療室が続いている





午後になると1階は子どもの天国。多くが小児矯正で通院している。どの場面でもコムネットの支援ツールが大活躍している



こで、落語で池田の街おこしを、ということになり、9年前に「落語みゅーじあむ」がつくられ、毎月落語会を開いています。こいし歯科でも待合室を寄席に設えて、2カ月に1回アマチュアの落語家さん呼んで「手水寄席」を開いています。この11月で48回目を迎えます。

この寄席には六代目の桂文枝師匠から「天神亭笑歯」という名前を頂戴しました。私も「恋歯家歯つ恋」(こいしやはつこい)という芸名で、歯科に限らず、健康や食育など、毎回楽しい噺を考えて笑っていただいています。20席の部屋に毎回40人もつめかけて超満員です。ありがたいなあと感謝しています。え、例えばですか〜? では「口は禍の元」という噺を。先生と梅さんの掛け合いです。先生が梅さんの家に招かれたが玄関が汚い。食事をご馳走になっても玄関から虫が湧いて湧いて収拾がつかなくなりました。やっぱり玄関をキレイにしておかないとね。人間も同じ「口は禍の元」ですよ。おあとがよろしいようで…。

●「多職種連携」と「地域に出ること」

——小石先生は生まれ育ったこの池田でこれからどのような地域医療を展開していこうと考えておられますか?

小石 地域のみなさんあってのこいし歯科です。一緒に池田をよりよい街にしていきたいといつも考えています。私たちは地域に生かされ、自分たちも地域の一部なのです。地域の一員として、自分に期待されている役割にこたえて「共存共栄」してい

きたいと思っています。

今年から「地域包括ケアシステム」が強力に推し進められています。私たちが10年以上前から実践している「食支援」や「多職種連携」はまさにこの流れと同じです。これからは、1軒の歯科医院だけではなく、ネットワークが必要です。地域の歯科医院はもとより、文字通り多職種や病院や施設、学校や幼稚園、保育所、地域全体が大同団結してみんなの健康と幸せのためにも考え、行動していく時代にしていかなければならないし、それが可能になる希望に満ちた時代になると思います。そのために私たちも小児矯正を軸にがんばっていきたくと思っています。

そのためのビジョンは、1年後小児矯正のシステムを確立させる。3年後、それがカンバンになる診療所に成長する。5年後、理学療法士や言語聴覚士など他職種のスタッフも雇用して包括ケアのできる医院に飛躍する、こんなロードマップを描いています。そして将来的には、こいし歯科が、地域の人が気軽に立ち寄り自然に口腔ケアや子育て、息育て、足育てのできる「育ての場」になれたらいいなあ、と思っています。

——ありがとうございました。前回訪問したとき、私は先生の診療哲学と熱意に「歯科の明日」を感じる、と書きました。今回の訪問で「明日」がすでに現実のものになりつつあると感じました。素晴らしいことです。今後がますます楽しみになりました。

菊

こいし歯科 ホームページ

http://www.834814.com

サポート担当者より

●私が前任者よりこいし歯科様の担当を引き継いだのが2012年8月。今回インタビューに同行し、初めて医院にお伺いすることができました。院内ではコムネット製の患者さんへのお知らせや治療説明ツールなどをたくさんご活用いただいております。とても嬉しく思いました! ●診療の様子を拝見し、特に印象に残っているのが、小石先生を初め、スタッフの皆様が患者さんとお話をされる際、必ず視線の高さを合わせていらっしゃる事です。そして、どんなに忙しくてもお話をされている間は手を止めて、患者さんの声に耳を傾けている様子にとっても感銘を受けました。●小石先生は有志と共に町内のごみ拾いをする「いけだごみPLAY」や、

待合室で落語を演じる「手水寄席」というユニークな企画に加え、お子様と子育て世代のための「こどもカフェ」や「お子育て教室」の開催など、診療以外の取り組みにも積極的です。●地域の人々を応援するこいし歯科の皆様を、これからもサポートさせていただきたいと思っております!

高



「手水寄席」前でツーショット

コムネットがサポートした顎顔面矯正用シート

